

報道機関各位

令和7年7月17日

北九州市政策局

北九州市都市整備局

「A I 活用ナンバーワン都市・北九州市」に向けた挑戦

「A I 活用推進都市」宣言

全国初！

～ プロジェクト第1弾！「道路反射鏡A I 健全度診断」～

A I の急速な発展と社会実装が進む中、北九州市は、今年4月、政令市で初めて組織名に「A I」を冠する「DX・A I 戦略室」を設置しました。このたび、行政運営の高度化・効率化、社会課題の解決、さらには市民サービスの向上や地域産業の活性化を図るため、全庁的にA I を徹底活用する「A I 活用推進都市」宣言を行います。この宣言に基づき、日常業務へのA I の徹底活用に加え、政策立案の高度化・迅速化や社会課題の解決にもA I を活用し、「A I 活用ナンバーワン都市・北九州市」の実現を目指します。

今後、A I を活用したプロジェクトをシリーズ化して継続的に推進するとともに、その成果を順次公表してまいります。今回は第1弾として、都市整備局の「道路反射鏡A I 健全度診断」プロジェクトを発表します。

記

1 「A I 活用推進都市」宣言（別紙1）

- 施策の方向性は、「A I を徹底活用する」「A I の活用を支える」「A I 活用の機運を高める」の3本柱
- 令和9年度までに目指す姿（K P I）は、「A I による社会課題等の解決件数：累計10件」「A I を活用した業務の削減時間：年間10万時間」など

2 「道路反射鏡A I 健全度診断」プロジェクト（別紙2）

- スマホやタブレットで道路反射鏡（カーブミラー）を撮影するだけでA I が健全度を診断し、結果を電子台帳に自動登録するシステムを、スタートアップと共同開発
- 道路附属物（道路反射鏡など）の健全度をA I で診断するシステムが本格的に運用されるのは、全国初



【お問い合わせ先】

■ A I 活用推進都市宣言に関すること

政策局 DX・A I 戦略室

TEL 093-582-3007 担当課長：徳光 担当係長：高塚

■ 道路反射鏡A I 健全度診断に関すること

都市整備局 道路部 道路維持課

TEL 093-582-2274 担当課長：下田 担当係長：馬渡

「AI活用推進都市」宣言



AIの進化を、北九州市の力に
全職員がAIを使いこなし、創造的で効率的な行政へ
AI活用ナンバーワン都市・北九州市、ここに始動

【「AI活用推進都市」宣言全文】

AIの急速な発展と社会実装が進む中、北九州市は、行政運営の高度化・効率化、社会課題の解決、さらには市民サービスの向上や地域産業の活性化を図るため、AIの徹底活用を全庁で推進してまいります。

全職員が自らの業務にAIを積極的に取り入れ、使いこなすことで、より創造的・効率的で、変化に柔軟かつ果敢に対応できる自治体への変革を目指します。

官民連携を一層強化し、これからAIがもたらすイノベーションの波をいち早く捉えることで、「AI活用ナンバーワン都市・北九州市」の実現に向け、全力で取り組むことをここに宣言します。

「AI活用ナンバーワン都市・北九州市」に向けて



ミッション

- ・ 行政運営の高度化・効率化、社会課題の解決
- ・ 市民サービスの向上、地域産業の活性化

ビジョン

- ・ より創造的・効率的で、変化に柔軟かつ果敢に対応できる自治体への変革

アクション

- ・ AIの徹底活用を全庁で推進
- ・ 全職員が自らの業務にAIを積極的に取り入れ、使いこなす

DX・AI 戦略室

- ・ 全庁的なAI戦略の司令塔（市役所全体の連携強化）
- ・ 最先端の技術と行政・社会のニーズをつなぎ、新たな価値を創出

施策の方向性

AIを徹底活用する

生成AIを日常活用することで、
政策形成と働き方を刷新

AIの活用を支える

AIリテラシー・ガバナンスの向上と
AI活用に適したデータ基盤の整備



AI活用の機運を高める

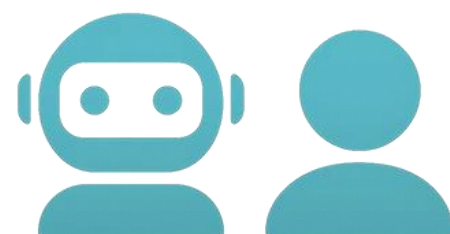
民間等との多様な連携によって、
AI活用ノウハウの伝播・普及

具体的な施策



AIを徹底活用する

- ・全職員が日常業務に利用できる**庁内生成AI**環境の刷新（QT-GenAI）
- ・**最先端の生成AI**を活用した政策立案の高度化・迅速化
- ・**社会課題の解決、市民サービス・ES向上**に向けたAI実証・導入プロジェクト
- ・AIを活用した**市民意見の収集・課題分析**（課題快傑バスターズとの連携等）



AIの活用を支える

- ・有識者による**幹部職員向けAI勉強会**
- ・全職員活用に向けた**AI研修**（DX人材育成プロジェクトの拡充）
- ・北九州市**生成AI活用ガイドライン**等の適切な運用によるガバナンス体制の構築
- ・AI実証・導入プロジェクトを通じた**AI活用を促進するデータ整備**



AI活用の機運を高める

- ・AI関連施策の**情報発信強化**
- ・**企業、研究者、コミュニティ**とのネットワーク形成（イベント開催等）
- ・**ビッグテックや学術研究機関**等との連携（実証プロジェクトへの参加等）
- ・経産省**GENIAC-PRIZE**への参画

目指す姿（R9年度までの指標）

■成果指標

- ・ AIによる**社会課題等の解決**件数：累計10件
- ・ AI活用による**市民満足度**（※）の向上：50%（R11年度調査予定）
※AIの活用で市民サービスが向上したと思う市民の割合
- ・ AIを活用した業務の**削減時間**：年間10万時間

■活動指標

- ・ AI**実証・導入プロジェクト**実施件数：累計15件
- ・ AI**高度活用人材**の育成数：累計150名
- ・ AI関連施策の**報道発表**件数：累計30件
- ・ 職員の**生成AI活用率**：90%



「AI活用ナンバーワン都市・北九州市」 の実現に向けたロードマップ

**Kitakyushu
Action!**
動かせ、未来。北九州市



Step 1 **AI活用推進 都市宣言**

『行政運営の高度化・効率化』
に向け、生成AI徹底活用や実証実施

Step 2 **実証から 実装へ**

『市民サービス向上』に向け
AI活用を加速度的に推進

Step 3 **AI活用ナンバーワン 都市の実現**

『AI時代の次世代自治体』へ
AIと共に成長し、新たな価値を創出

Step 0 **AI活用の 基盤構築**（～R6）

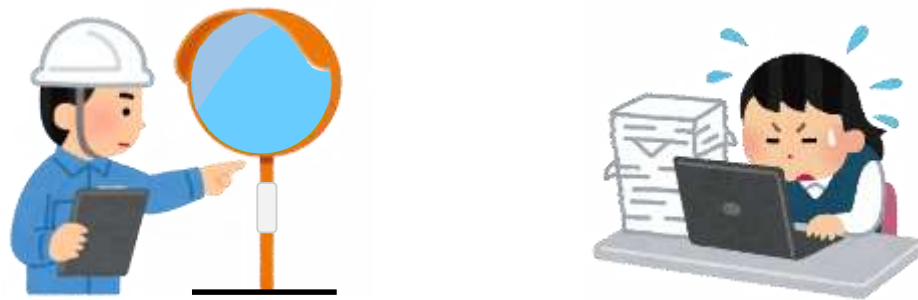
- ・ AI議事録、AI-OCR等のAIツールの導入
- ・ 生成AI等活用ワーキングチーム立ち上げ、生成AI活用ガイドラインの策定
- ・ 生成AI実証事業の実施、全職員が利用できる庁内生成AI環境の整備

各Stepで実現したい施策イメージ

Step1	Step2	Step3
行政運営の高度化・効率化	市民サービスの向上	AI時代の次世代自治体
- 最先端の生成AIを活用した政策立案の高度化 - 社会課題の解決などに向けたAI実証・導入 - 全職員活用に向けたAI研修 - ガバナンス体制の構築	- AIチャットボットや音声AIによる24時間市民対応 - AIによる市民意見の分析と政策への反映 - AIが支援する総合相談窓口	- AI予測分析を基盤とする政策立案の高度化 - AI解析と高度センシングによる即時災害対応 - AIによってパーソナライズされた福祉・健康支援サービス - AI制御による自律運営型スマートシティ

道路施設維持管理の課題

点検に多大な時間・労力・費用
対象の施設数が非常に多く、点検作業、
調書作成等の実務や費用の負担が課題



客観的な評価が困難
判定基準はあるが、点検者の主観が
入りやすくバラつきがある



解決策

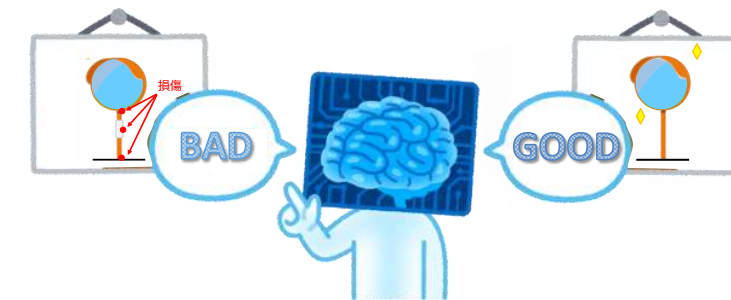
点検作業の効率化

A I を点検に用いることで、点検作業
の効率化及び費用の削減



客観的な評価が可能

A I による、主観が入らずバラつきの
ない判定が可能



「道路反射鏡 A I 健全度診断」プロジェクト



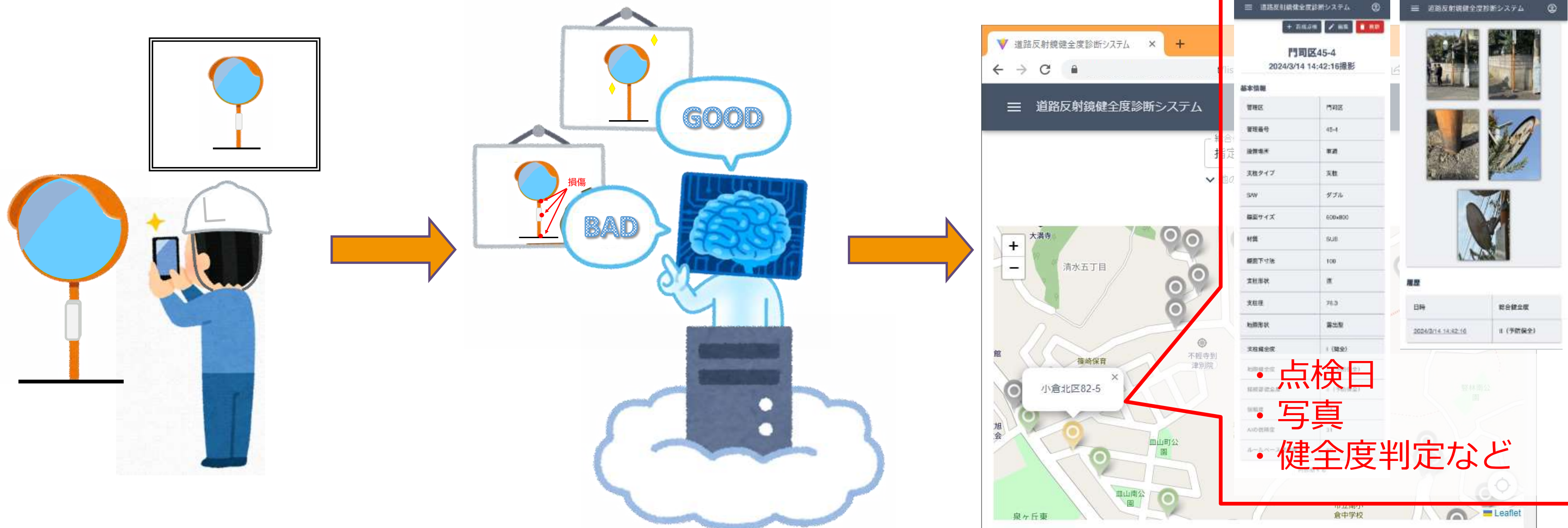
- AI活用した道路附属物（カーブミラー等）の健全度診断システムの本格運用は『**全国初！**』
- 道路反射鏡（カーブミラー：市内約1万基）を**スマホやタブレットで撮影するだけで、A I が健全度を診断し、結果を電子台帳に自動登録**
- スタートアップとの共同で開発を行ったシステム
- A I による診断で、**誰が点検しても熟練技術者とそん色ない精度**



「道路反射鏡 A I 健全度診断」プロジェクト



A I 診断の概要



① 現地で撮影

② A I による健全度判定

③ 診断結果を電子台帳に自動登録

「道路反射鏡 A I 健全度診断」プロジェクト



導入による効果

■ 業務効率化：作業時間（現地調査、台帳作成）

640時間／年 → 340時間／年 （約47%削減）

■ 費用削減：点検コスト

1,500万円／年 → 800万円／年 （約47%削減）
（点検費＋台帳作成費） （点検費＋システム保守・運用費）

今後の予定

○ U I の改良（使い勝手の更なる向上）

○ 他の施設への横展開（照明灯、標識支柱、他の公共施設等）